



### 平成23年度 第50回入学式

本年は、冬の寒さが厳しかったために桜の開花が遅れ、満開の桜が咲き誇る絶好の式典日和のなか、4月6日(水)に50回目という節目の入学式が挙行されました。

入学式に先立ち、3月11日に発生した東日本大震災の犠牲者を悼み、黙祷を捧げました。

式は新生全員による学生歌「青潮ゆたかに」の斉唱後、まず大学院経済社会システム専攻の新生でもある中尾友昭下関市長の祝辞があり、続く荻野喜弘学長からの祝辞では、市大で新しく始まった就業力育成 GP や新学科設立など3つのプログラムの紹介がありました。また、現代の日本は第3の復興、第3の開国期にあたっており、今後の日本の変革を担う覚悟と気迫をもってこれからの大学生活を送り、日本の変革を担える人間になれるように自己を鍛えて欲しいとの言葉がありました。続いて、末永昇下関市議会副議長、吉川英俊後援会会長、柴田勝利同窓会会長、柴優美学友会会長から祝辞が述べられました。

これに対して、学部新入学生を代表して経済学科川淵由紀さん、学部留学生は経済学科唐舸さん、交換留学生は東義大学の金孝恩さん、科目等履修生はタイ商会議所大学のタイヤトーン・ワニチャヌワットさん、大学院生は国際ビジネスコミュニケーション専攻の沙后陸さんが、それぞれ誓いの言葉を述べました。今年の新入学生は、公共マネジメント学科第一期生71名を含む学部生487名、3年編入生18名、交換留学生9名、科目等履修生5名、大学院生5名の合計524名です。

恒例となっている応援団による応援歌とエールの後、吹奏楽部が「エルクンバン・チェロ」を演奏し、フルートの独奏部分などもあり、リズムカルで元気のよいサウンドに大きな拍手があり、式は滞りなく閉会しました。



### ■新理事長就任挨拶

公立大学法人下関市立大学理事長 **本間 俊男**



平成23年4月1日付で「公立大学法人下関市立大学」の理事長として就任いたしました。

私は昭和49年から37年間にわたり下関市職員として地方行政に携

わってまいりましたが、引続き下関市の大切な財産である法人の代表者として重責を担うこととなり気の引き締まる思いであります。

時同じくして諸先輩のご努力により新たに下関市立大学第3番目の学科として「公共マネジメント学科」がスタートしました。現代社会は近年の世界的な異常気象による様々な天変地異、環境問題、またこの度の東日本大震災に代表される全国各地の災害、更には平成の大合併後の各地方自治体における地域間競争の激化、社会全般に押し寄せるグローバル化の波等々への対応が喫緊の課題となっております。今こそすべての社会制度を根本的に見直し、必要な改革に挑戦すべきときではないでしょうか。この新学科が果たす有為な人材の育成はまさに時機を得たものと思っております。下関市立大学は従前より「産学官」連携の重要性を認識し地域の活性化及び進展に50年有余にわたり多大な貢献をしてまいりました。下関市にとって大学設置の重要性は今後ますます大きくなっていくものと確信しているところです。

ところで、私の生活信条は「油断大敵」です。ノーアウト満塁でも得点できないことは多々あります。ツーアウトランナー無しから大量失点することもあります。この度の理事長就任に当たり微力ではありますが、大学間競争の激しい中、緊張感を持って大学運営にあたりたいと思っております。また私は池波正太郎の時代物を愛する普通の親爺です。せっかく頂いたご縁ですので、学長をはじめ教職員の皆様とともに従前にも増して明るく元気のある「市大」を作っていきたく思いますので、気軽にお声をかけていただき、関係各位共々ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 公共マネジメント学科開設!!

### ◆リレー講義「公共マネジメント入門」

教授 水谷利亮

公共マネジメント入門は、公共マネジメント学科で学ぶ1年生が春学期に、学科で学ぶことの全体像を把握・理解しながら大学で何をどのように学ぶのかについて考えるための専門基礎の講義科目です。学科の専任教員全員と学長などが、公共マネジメントという観点と各自の専門分野の研究内容とを関連づけて1時限ずつリレー講義を行っています。学生との質疑応答も積極的に組み入れています。

第1回目の授業では、新学科1年生が学科の全教員と初めて対面して今後の講義のエッセンスを学び、チューターの班ごとに学生が分かれて各教員と意見交換を行いました。2回目は学長による「学問事始」として「大学でいかに学ぶか」というテーマの講義で、学問の大切さ・楽しさ・厳しさについて考えながら、①「教養」の習得、②学問の考え方（例えば、経済的な考え方）を身につけること、③「読み、書き、考える」ことを鍛錬することの大切さが強調されました。3回目以降は、『「新しい」公共サービスの担い手としての住民・NPO・企業』など、各教員による講義が順次行われています。

この授業は、公共マネジメント学科の1年生全員が履修しています。今年度は、学科開設記念特別公開講座や新学科1年生対象の1泊2日の入学時キャリアデザイン合宿などがあり、この授業がそれらの準備学習の場ともなりました。また、教員と学生や学生同士の交流・情報交換の機会にもなっています。



### ◆公共マネジメント学科開設記念特別公開講座

教授 叶堂隆三

公共マネジメント学科開設記念特別公開講座が、5月10日（火）・11日（水）に開催されました。あいにくの天気でしたが、両日の特別公開講座に下関市立大学生そして多数の市民の方の来場がありました。

初日の第1部の記念講演「下関市のこれからはどうなる—市長の仕事」で、中尾友昭下関市長はまず自らの青春時代を振り返って学業の大切さを語り、ついで本来のテーマである市長の仕事・行政の仕事・議員の仕事にふれ、講座の主な対象者である新学科の1年生を考慮した講演でした。第2部の中尾市長と萩野学長による特別対談「下関の未来を語ろう」では、萩野学長が聞き手を務めて、「20年後の下関市」を見ずえた市長の考え、市の将来計画等を議論する展開になりました。

二日目の第1講演は、下関市総合政策部長河原明彦氏による講演「福祉に未来はあるか」、そして、第2講演は、下関市産業経済部長三木潤一氏による講演「農業は生き残れるか」でした。いずれの講演も担当した行政領域に関して、パワーポイント・資料を用いなが

ら専門の内容を分かりやすく噛み砕いた講演でした。

加えて、二日間ともに各講演・対談の後の質疑応答で、学生・市民から熱心な質問があり、また講師による真摯・適切な回答も相まって、講演・対談と同様に、大いに盛り上がる内容になりました。



### ◆平成23年度 キャリアデザイン合宿報告

教授 大内俊二

公共マネジメント学科1年生を対象とした、キャリアデザイン合宿を北九州市にある玄海青年の家に、5月21日（土）・22日（日）の1泊2日の日程で実施しました。参加者は、学生59名・教職員20名の総勢79名でした。この合宿では「仲間づくり・大学生活での目標づくり・学びの目標づくり」を目的とし、4つの活動を行いました。

最初の活動では、青年の家のスタッフの指導の下に玄海アドベンチャー教育プログラムを実施しました。前半ではスキップを図るためのゲームを行い、後半は3班に分かれ、仲間づくりを目的とした課題解決型ゲームを行いました。

初日の夜には、「教職員と語ろう」を実施しました。参加した教職員が、所属や経験等にしがたがって分かれ6のテーブルにつき、学生がグループごとにすべてのテーブルを回り、それぞれのテーブルに関わる質問を中心に雑談をするというものです。各テーブルでの持ち時間は10分間と短いものでしたが、世代を超えたコミュニケーションを積極的に行うという目的は達成されたように思います。最後に、学生支援班の尼子氏による手品が披露され、歓声と拍手とともに1日目の活動は終わりました。

2日目の午前中には、NASAと呼ばれるコンセンサスによる集団決定の実習を行いました。ちなみに、与えられた課題は「月で遭難したときにどうするか」というものでした。

クロージングでは、自分を見つめなおすという趣旨で「私がしたい20のことがら」を書き出してもらいました。また秋学期開始時に受け取る「自分への手紙」を書いてもらいました。4ヵ月後に、今の意気込みが継続できているでしょうか？

最後に、この合宿は公共マネジメント学科の行事ですが、本年度は就業力GPの取り組みの一環として実施したことを申し添えて報告とします。





### 2011年度入学者選抜実施状況

		学科(定員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質倍率	
一般選抜	前期日程	経済学科(52)	243	232	72	59	3.2	
		国際商学科(52)	218	197	81	61	2.4	
		公共マネジメント学科(16)	139	131	23	20	5.7	
	公立大学中期日程	経済学科(83)	1,393	761	297	86	2.6	
		国際商学科(83)	1,271	648	238	79	2.7	
		公共マネジメント学科(27)	552	304	89	30	3.4	
推薦入学	全国	経済学科(27)	87	87	28	28	3.1	
		国際商学科(27)	45	45	30	30	1.5	
		公共マネジメント学科(7)	18	18	9	9	2.0	
	地域	A推薦	経済学科(29)	56	56	29	29	1.9
		B推薦						
		A推薦	国際商学科(29)	43	43	29	29	1.5
		B推薦						
	特別選抜	帰国子女	経済学科(2)	0	0	0	0	0
国際商学科(2)			2	2	2	0	1.0	
公共マネジメント学科(1)			0	0	0	0	0	
社会人		経済学科(2)	0	0	0	0	0	
		国際商学科(2)	0	0	0	0	0	
		公共マネジメント学科(1)	0	0	0	0	0	
中国引揚者等子女		経済学科(若干名)	1	1	1	1	1.0	
		国際商学科(若干名)	1	1	1	1	1.0	
		公共マネジメント学科(若干名)	0	0	0	0	0	
外国人留学生		経済学科(若干名)	29	27	7	5	3.9	
		国際商学科(若干名)	43	41	16	8	2.6	
		公共マネジメント学科(若干名)	20	19	6	5	3.2	
編入学	経済学科(10)	28	26	11	9	2.4		
	国際商学科(10)	28	25	11	9	2.3		
大学院	経済社会システム専攻(5)	1	1	1	1	1.0		
	国際ビジネスコミュニケーション専攻(5)	5	5	4	4	1.3		

### 2011年度合格者出身校

北海道	苫小牧南	山口	岩国3、高森、光、下松4、徳山4、防府3、防府商業4、山口4、山口中央3、宇部3、宇部商業、小野田7、厚狭5、田部、西市2、豊浦10、長府4、下関西、下関南 11、下関中央工業2、下関工業2、豊北3、萩3、下関商業 16、新南陽、響7、西京2、下関中等教育4、青嶺2、野田学園、宇部フロンティア大学付属香川、サビエル、早朝5										
栃木	鹿沼		徳島	城北2、富岡東3、鳴門、名西、脇町2、城ノ内3、徳島北2、徳島文理									
富山	水橋、南砺総合高等学校福光			香川	三本松、坂出、丸亀、善通寺第一、観音寺第一、高松第一5、高松西3、高松北5、香川中央、高松桜井2、香川県大手前高松、香川県大手前4、香川県藤井								
石川	羽咋、小松明峰				愛媛	川之江、三島、新居浜西、西条、丹原、今治西3、今治北3、松山東、松山南2、松山北9、松山商業3、大洲2、野村、宇和島東3、松山中央3、宇和島南、済美平成、新田青雲2							
福井	武生2、北陸、敦賀気比					高知	高知追手前3、高知小津、明德義塾						
岐阜	武義2、多治見、多治見北、中京						福岡	育徳館、京都5、小倉南6、小倉商業2、小倉西4、戸畑6、若松商業、八幡 15、八幡中央2、八幡南3、宗像2、新宮2、香椎、福岡中央、城南、筑紫、糸島、久留米4、伝習館、山門、大牟田北、八女3、朝倉、田川3、稲築志耕館、嘉徳9、嘉徳東、鞍手4、北九州市立、福岡西陵、北筑 16、春日2、小倉東2、中間、光陵、博多青松、青豊2、門司大翔館2、浮羽究真館、門司学園5、敬愛、東筑紫学園2、九州国際大学付属3、福岡大学附属若葉4、精華女子、泰星、筑紫女学園、福岡工業大学附属城東 11、福岡舞鶴4、自由ヶ丘2					
静岡	伊東、清水南、掛川西、袋井、浜松市立2、小山、静岡北							佐賀	佐賀西2、唐津東2、唐津西2、伊万里、小城2、武雄3、白石、伊万里商業、龍谷4				
愛知	一宮北、稲沢東、横須賀、西尾東3、新城東、東海南、西春、豊田北、江南、小牧南2、豊田南5、岡崎西、新川、名古屋、愛知啓成2、春日丘								長崎	長崎東2、長崎西、長崎南2、佐世保南、佐世保北2、佐世保西 10、大村8、諫早5、鳥原、口加、猶興館4、五島3、長崎北陽台、西陵3、長崎南山、長崎日本大学			
三重	上野、川越3、海星									熊本	第一、第二3、熊本商業、玉名2、鹿本、宇土、八代4、人吉、天草2、熊本北、東稜2、九州学院、熊本マリスト学園、文徳7		
滋賀	守山2、水口東2										大分	杵築、大分舞鶴6、大分雄城台2、大分西、白杵、佐伯鶴城3、竹田4、日田2、中津南2、安心院、大分豊府 12、三重総合、日本文理大学附属	
京都	山城2、桃山、福知山、加悦谷、峰山、西城陽、菟道4、龍谷大学付属平安											宮崎	高千穂、延岡、日向4、宮崎西5、日南、都城泉ヶ丘、都城西2、小林、延岡星雲、宮崎日本大学、鵬翔4、宮崎第一、日向学院
大阪	三島、富田林、東、開明3、浪速、城南学園、近畿大学附属2、大阪桐蔭												鹿児島
兵庫	兵庫、星陵、北須磨、神戸商業、鳴尾、明石南、明石西、加古川西2、西脇、北条、三木、姫路東3、福崎、龍野2、山崎、姫路商業3、豊岡2、八鹿、相生2、市立伊丹、姫路2、飾磨、加古川北2、三木北、姫路飾西2、北摂三田、三田西陵、国際、芦屋国際、神戸星城、滝川4、三田学園	沖縄											
奈良	奈良育英4、帝塚山2、智辯学園、奈良学園2												
和歌山	橋本、桐蔭3、日高、田辺、新宮、開智2、和歌山信愛女子短期大学附属、近畿大学附属新宮												
鳥取	鳥取東2、鳥取西2、八頭2、倉吉東、倉吉西、米子東、米子西、境、鳥取中央育英2、米子北												
島根	安来2、松江北2、松江南7、三刀屋4、出雲4、大社、江津工業、益田3、松江東												
岡山	岡山朝日、岡山操山2、岡山大安寺 10、岡山芳泉3、岡山東商業、倉敷天城2、倉敷南、津山3、津山東、玉野、県立玉島4、笠岡、井原3、総社2、高梁、新見3、瀬戸8、邑久、岡山一宮、倉敷古城池2、玉野光南、総社南2、岡山城東3、就実、明誠学院2、関西、岡山理科大学附属、岡山学芸館、岡山学芸館3												
広島	広島観音2、広島国泰寺8、広島皆実3、海田3、廿日市3、賀茂5、安古市6、広4、呉宮原、呉三津田2、尾道東2、尾道北7、三原4、世羅3、福山誠之館6、府中7、大門7、福山明王台、庄原格致、三次、日彰館、舟入5、基町、呉、広島井口6、安芸府中2、神辺旭、祇園北3、安芸南2、美鈴が丘、広島5、崇徳2、広陵、比治山女子、広島新庄、広島城北2、呉港3、清水ヶ丘、武田、盈進2、銀河学院、近畿大学附属東広島												

## ■第46回卒業式



本年3月25日、第46回卒業式(下関市立大学および大学院)が執り行われ、経済学士227名、国際商学士217名、大学院修士11名、計455名が学位記授与されました。

今回の卒業生たちは、なかなか好転しない雇用環境の下で就職活動をし、3月上旬の大震災直後の厳しい経済社会に向けて旅立つことになりました。中尾友昭市長、荻野喜弘学長らより卒業のお祝いとともにねぎらいと励ましのことが贈られました。

市長からは「安全」「安心」の経済社会の導き手になってほしい、学長からは吉田松陰の「立志至誠」と「common sense = 他者理解」をもち自らの可能性を信じて逞しく生きてほしい、ということでした。これを受けて、卒業生総代の池上涼さん、留学生総代の段貴玲さん、院生総代の郝瑛さんがそれぞれ旅立ちのこぼを述べました。

なお、卒業証書・学位記授与の総代は、経済学科住川昌久さん、国際商学科笹江梨紗さん、大学院総代は神原令佳さんが務めました。本年度の優秀赤馬賞は荻野学長から経済学科松本健太郎さんに、後援会賞は吉川会長から同学科和久仁さんに授与されました。

## ■鯨資料室シンポジウム「日本とくじら」の開催 教授 櫻木晋一



平成23年2月5日(土)13時30分～16時、下関市立大学B講義棟223番教室で、第3回鯨資料室シンポジウム

「日本とくじら」が開催されました。江戸時代から明治前期までの日本捕鯨に関する歴史的な側面の解明をメインテーマとしたもので、市民や学生など約70名の参加者がありました。2部構成の第1部は、福岡市博物館主任学芸員鳥巢京一氏による「近世・近代初期の西海捕鯨と下関」と題した基調講演でした。内容は、簡潔な捕鯨の歴史と捕鯨技術、民俗芸能や食文化を含めた日本の鯨文化に関する概説の後、平戸や壱岐、長門で行われていた西海捕鯨についての社会経済史的な解説でした。幕末の下関に鯨製品を取り扱った商人がいたことや、下関が商品の流通基地から近代になって捕鯨基地へと変化する経緯についての説明もありました。第2部のパネルディスカッションでは、日本鯨類研究所大隅清治顧問、甲南女子大学森田勝昭教授、本学委嘱研究員岸本充弘氏が加わり、幕末に米国捕鯨船団が日本海近くで捕獲

した鯨種や、北前船で運ばれた塩蔵鯨、日本の捕鯨が近代化を迫られた状況、アメリカの捕鯨船の航海日記に基づいた日本へのルートと箱館を基地とする捕鯨活動の実態、近代に入り古代捕鯨で遅れをとっていた下関がいち早くノルウェー式捕鯨法を導入し、近代捕鯨基地として栄えた経緯などについての補足説明があり、質疑応答では会場の市民からも意見が寄せられ、活発な議論が交わされました。

## 退任挨拶

### ■理事長としての4年間を振り返って

前理事長 松藤智晴



私こと2011年3月31日付をもちまして、任期満了に伴い公立大学法人下関市立大学理事長の職を退任いたしました。

2007年4月1日に下関市立大学が公立大学法人化されると同時に初代理事を拝命されて以来4年、どうか理事長としての責任と任務が全うできたのではないかと考えておりますが、これもひとえに下関市立大学の職員並びに下関市立大学同窓会及び下関市立大学後援会の会員皆様方のご理解とご協力のお陰と感謝申し上げます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

公立大学法人は企業と異なり利潤を目的とする法人ではありませんが、それでも今後18歳人口の減少により大学間競争が激しくなっていく中で勝ち組として生き残るために投資的資金が必要となること及び健全な経営を確保することが大学に求められることから、職員にはコスト意識を持って大学経営に取り組むための意識改革の醸成を図ってまいりました。

そのためには理事長の責任として職員にも苦言を呈し、ある程度は嫌なことも申し上げてまいりましたが、これもひとえに下関市立大学のために良かれと思い申し上げたことで、全く他意はなかったことをご理解いただきたいと思います。

わたくしも大学改革を進めるうえで、「守るべきところは大事に育て、改めるべきところは勇気を持って改革する」ことをモットーに大学改革を実行してきたつもりでございます。

その結果、大学職員皆様方のご理解とご尽力のお陰で理事長在任中の3年間でどうか初期の目標額としていた資金を積み立てることが出来ましたが、この資金は教育・研究並びに学生サービス向上のために有効に使っていかねばなりません。

大学にとって学生は大切なユーザーであり、学生は授業料の対価として大学から教育というサービスを受ける権利があることを大学職員は改めて肝に銘じていただきたく、今後益々公立大学法人下関市立大学が発展するため、大学職員皆様方は使命感を持って確実に大学改革を進めていただきますことを期待申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

### ■多くの方々に支えられての大学生活

外山 忠



本年3月をもちまして本学を退任することになりました。1977年に赴任しましたので、34年間を本学で過ごしたことになります。

様々な思い出のなかで、赴任後12、3年頃までの出来事が比較的強く印象に残っています。その理由は、当時、本学の更なる発展の



ためには制度改革等が求められており、現実にそれらが実行されることで、現在に至る本学の礎が築かれたという過渡期を反映した大きな変化を実感できたからだと思います。例えば、共通一次試験の導入（79年）とそれに伴う本学の現行入試制度の発端となるC日程、A日程、推薦入試の開始、国際商学科の増設（83年）と定員増（88年）による志願者の急増、3年の準備期間を要した福利厚生施設としての本学生協の設立（88年）等です。個人的には、78～79年は入試委員として制度改革に係り、学科増設では担当科目が変更になりました。生協設立準備には当初から参加し、組合員として相互に対等な立場で学生と議論し、協力できたのは貴重な体験でした。

近年、日本の大学は、構造改革路線に沿った独法化によって大きな変化の渦中に置かれています。そのなかで、本学がどこに向かおうとしているのか、注意深く見届けたいと思っています。多くの方々に支えられての大学生活でした。本当に有難うございました。

## ■下関市立大学を去るにあたって

### 溝 潤 彰



2004年4月に赴任して以後、6年間という長いようで短い期間、商法担当教員として本学の職務に従事して来た。今、下関市立大学（以下、市大という）での6年間を振り返ると感慨深いものがある。

下関を初めて訪れたのは採用面接に来た時であった。下関駅に降り立った最初の町の印象は何と寂れた町かと落胆した（実際は、夜に到着したため、店が閉まっており寂れているように見えただけだったのであるが）。当時、多くの大学で法科大学院の設立が決まっており、法学系の教員が多数そちらに移ったため、法学部や経済学でポストの空きが大量に発生した。そのような状況の中で私のような者でも就職でき、大喜びで大学に赴任したことを今でも昨日のこのように覚えている。

市大に赴任して自分の人生を変えた最大の出来事は、やはり米国への国外研修に行ったことである。受け入れて下さったのは、ルシアン・ベブチャック教授（ハーバードロースクール）であった。特に、自らの学問を立法や裁判の場で実践し、再び自らの研究にフィードバックする彼の研究手法は大いに感銘を受け帰国後私自身も実践している。山口の偉大な教育者であり、私の尊敬する吉田松陰の「学問は実践しなければ意味がない」との考えと相通じるものがある。

この国外研修によってそれまでの内向的・八方美人的性格が180度転換した。有益な主張を先に言った者が評価される米国の社会では、沈黙は「禁」であり、基本的に自己主張の強い人間が評価される。最初は対応に苦慮したが、「言った者勝ち」の社会に次第に順応し、自己主張の塊ようになって帰国した。この時、（ハーバードのある）ボストンで知り合った友人とは今でも交友が続いており、陰に陽に私の力になってくれている。

昨年、香川大学の法科大学院に来て欲しいとの要請があった。最初は突然の申出にびっくりした。香川県は私の故郷であり実家がある。病気で入院している母に聞くと、帰って来てくれたほうが安心するとのこと。市大に後ろ髪が引かれる思いもあったが、やはり香川県に帰ったほうが良いのではと考え大学を移ることにした。

最後に、6年間お世話になった本学の諸先生方そして学生諸君に、この場を借りて改めて御礼申し上げ、筆ならぬペンを置くこととしたい。ありがとうございました。

## ■国際共同研究シンポジウムの開催

### 教授 木村健二

3月26日（土）の午後、下関市海峡メッセの9階海峡ホールで、下関市立大学と釜山の東義大学校による、国際共同研究シンポジウム「日韓経済交流史-新時代の日韓関係の構築に向けて-」が開催され、学内外から60名近くの参加者がありました。下関市立大学の荻野喜弘学長、東義大学校の趙成基商経大学長のあいさつのもと、報告は、東義大学校から、朴泰珍教授の「韓日経済圏形成の可能性」、鄭錫贊教授の「釜山-九州の超広域経済圏内のIT協力方案」、下関市立大学から、木村健二の「戦前期山口・朝鮮間経済関係の経験」、中川圭輔講師の「企業倫理問題における日韓比較-『世間』からのアプローチ-」の順でなされ、それぞれの報告に対して活発な議論が行われました。

討論や閉会後の打ち合わせの場で、釜山・下関両市ともに、近隣諸都市・国家との激しい競争下で人口減少や経済後退が進んでいるが、お互いの理解の足りなさや政治的軋轢を克服し、経済協力をいっそう推進することによって、それらの問題を打開していくことができるという共通の理解が得られました。したがって今後も、そうした観



点を保持しつつ、統一的な課題あるいはテーマ設定のもとに、共同研究・討論の場を継続していくことが確認されました。

## サークル 紹介

## 軟式野球部

主将 竹岡 晃（国際商学科3年）



私たち軟式野球部は、現在1年生～3年生の選手31名、マネージャー3名の計34名で活動しています。軟式野球部は毎年5月と10月に行われるリーグ戦での優勝を目指して日々の練習に励んでいます。

昨年は引退された4年生の活躍もあり秋のリーグ戦で33年ぶりの優勝を飾ることが出来ました。また、この結果進んだ西日本学生軟式野球選抜大会では、準優勝という結果を残すことが出来ました。部員たちはこの結果に満足することなく、向上心を持って取り組んでいます。

今のチームはやる時はやる、楽しむ時は楽しむというように、メリハリのあるチームです。試合では一人一人が自分の役割を理解し、それを全うすることでチーム一丸となって戦うことを意識しています。特にリーグ戦でのベンチの明るさは、市大軟式野球部の伝統となっており誇りでもあります。

残念ながらこの春のリーグ戦では4位という結果に沈んでしまいましたが、秋のリーグ戦では、2年連続の優勝、そして昨年逃した西日本大会での優勝を目指して部員一同頑張っていきたいと思っています。

## 新任教員挨拶

### 講師 足立俊輔



今年度新設の公共マネジメント学科で会計学を担当することになりました足立俊輔と申します。本校に赴任する前は九州大学大学院経済学府の博士後期課程に所属しておりましたので、本校が初めての赴任校ということになります。

私の専門分野は会計学になりまして、これまで病院会計、特に病院原価計算の分野で研究に取り組んできました。本校の担当科目は公会計・非営利会計でして、主に地方自治体やNPO 法人の会計を教えることになります。若干病院会計と異なる面もありますが、公的組織の会計というテーマで捉えた場合、直面する課題は共通点が数多く存在しております。それゆえ、今後の研究対象も、病院会計を含む公会計・非営利会計という広範な枠組みで研究させていただきたいと思っております。

なお、下関市に住み始めて早一ヶ月となりましたが、下関の街の雰囲気は馴染みややすく暮らしやすい印象をもっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 准教授 桐原隆弘



みなさんこんにちは。桐原隆弘と申します。本学で哲学、ドイツ語、公共哲学を担当することになりました。いずれも、経済学部ではマイナーな教科かもしれませんが、実は、私はもともと経済学の勉強から出発し、哲学の方へ進路変更しました。とはいえ今でも経済学を含めた社会科学への関心を常に持って、現在はドイツの「社会哲学」の系譜をたどりながら、哲学と社会科学の接点を探っています。

私は学問というのは、好奇心と探究心に支えられながら自己省察を繰り返す作業だと思います。同じ事柄を別の観点から見直し、同じ本を何度も読み返し、自分の書いた論文・著作を練り直すことをつうじて、対象についてだけでなく、自分自身についての理解が深まることがあります。これは学問から得られる固有の喜びの一つでしょう。授業ではこの喜びを皆さんと少しでも共有できるよう、良質の古典作品を紹介いたします。みなさんの積極的な取り組み、質問を歓迎します。

### 准教授 菅 正史



今年度より、「環境マネジメント」「都市環境論」を担当することになった菅正史です。出身は福岡市ですが、中学～高校は鹿児島、大学進学後は東京で烏兔忽忽たる日々を過ごし、昨年秋から福岡県北九州に在住しています。

私の専門の都市計画は、総合的な視点から様々な都市問題の解決を考える学問です。気候変動問題をはじめ、人間の活動に対する地球の有限性が明らかになりつつある中、環境負荷の主たる発生源である都市も、そのあり方を問われています。私たちが日々を過ごす都市の将来の姿を、その背景となる国土や社会のルール等を含めた視点から、考えていくことができると考えています。

4月より市大に勤務することになりましたが、私の祖父が、生前の一時期に旧国鉄時代の幡生駅で働いていたと知り、何かの縁を感じています。国の省庁や自治体所管のシンクタンクに勤務した経験も活かしながら、教育や研究を通じた地域貢献を行っていきたく思います。

### 教授 高橋和幸



4月より着任いたしました、高橋和幸と申します。主な担当科目は会計学原理と簿記原理で、出身は長崎です。とはいえ、長崎以外で暮らしている年月の方が長くなりましたが。長崎と下関とで思い浮かぶのは、ともに水産業や造船業が盛んなことであつたり、幕末の時期に歴史の舞台に顔を出したりするなどの、いくつかの共通点です。そういうこともあつてか、意外にすんなりと馴染みつつあるような気がします。

これまで、情報利用者指向の会計というものを主に研究してきました。昨今の会計の世界では、いわゆる国際会計基準の導入をめぐる活発な議論が繰り広げられています。簿記・会計は、企業内ではどちらかというと地味な存在かもしれませんが、一方では、会計を行うためのルールをめぐるこのようなグローバルな潮流もあります。また、企業経営において不可欠です。

このような簿記・会計というものを、これまでの経験も活かしつつ、新鮮な気持ちで担当していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 教授 水谷利亮



この4月に公共マネジメント学科の教員として赴任しました水谷利亮です。行政学と地方行政論を主に担当することになっています。

4月下旬の新任教員歓迎会の折り海峡ゆめタワーに上って瀬戸内海と日本海を同時に眺め、5月の連休中に高杉晋作が幕末の長州藩で維新史を大旋回させる藩内クーデターの挙兵をした功山寺に行き、壇ノ浦から関門トンネル人道を歩いて15分で関門海峡を渡り九州・門司に行きました。「海峡文化」を実感した下関でのこれらの経験は、街道筋にないという意味で「どん詰まり文化」といった特色のある土佐・高知に暮らしていた私のモノの見方にとって、「事件」でした。

これまでの出会いと学びを基盤にしつつ、地域に根ざして伝統のある下関市立大学で新しい「文化」に刺激を受けながら、しっかりと仕事に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 准教授 山川俊和



4月に着任しました山川です。本学では貿易論、多国籍企業論、演習を担当しています。専門は国際政治経済学という国際経済と国際政治の相互連関をとらえる学際的な分野で、とくに環境保全のための国際貿易ルールの制度設計について研究しています。

ずっと東北・関東で生活してきましたので、遠くまで来たという印象があります。文化や言葉など「西」にはまだ慣れたとはいえませんが、新たな環境を楽しんでいます。貿易ひいては国際問題全般に関心がある身としては、東アジアを中心に国際的に開かれた下関という土地で研究・教育活動に携われることを嬉しく思っています。

現在、経済・政治・情報・文化などが地球規模で密接なつながりをもつようになってきました。この「グローバル化」をどう捉えて、どう向き合っていくか。その時、経済学と国際政治経済学はひとつの道標を与えてくれます。世界の大きな変化をとらえる視角を、一緒に学んでいきましょう。



### 准教授 吉弘憲介



平成23年4月から、本学に赴任いたしました、吉弘憲介と申します。本学での担当講義は、地方財政論および財政学です。財政学は、政府の執行する財を民主主義という制度でコントロールすることを研究する学問です。しかし、そのコントロールへの「信頼」は近年、大きな危機に立たされています。財政を扱う学問は、今後、この「信頼」の回復をどのように行うのか、その点では古くて新しい「公平性」に対する政治経済的論考を深める必要にあると考えられます。以前の職場では、自治体の行う政策への提言や分析を行ってききましたが、そこに住民の意識をどのように投影するのか、という課題は常に意識してまいりました。本学でも、この財政学の大本を意識しつつ、それが実際の政策にどう影響するのか、という現実的かつダイナミックな内容を授業と研究に取り込んで行きたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

### 特任教員 董 洪利



皆様こんにちは。  
私は北京大学中国文学言語学部教授の董洪利と申します。私は三十数年来、中国古典文献学の研究と教育に従事してきました。中国古典文献学は中国の伝統文化における非常に重要な学問で、文学、音韻、訓詁、版本、目録、校勘などの一連の基礎的な分野が含まれます。北京大学においては、さらに対外中国語教育の授業も担当しており、外国人留学生に対して中国語会話等を教えた経験もあります。

今年の四月一日より、私は下関市立大学の招聘を受けまして、中国語の特任教員（任期一年）を務めております。このたび、幸いにも学生諸君と一緒に中国語を学ぶことができ、非常に嬉しく思っております。学生諸君には中国語の学習を通じて、将来日中友好の懸け橋となることを期待しております。中国の有名な詩人屈原の詩に「路漫漫其修遠兮、吾将上下而求索」「修行の道は長く遠く果てしないものであるけれども、私は紆余曲折を経て真理の探求をしよう」という句があります。これから一年、下関市立大学において、中国語習得を志す学生諸君と互いに切磋琢磨し、勉学に励んでいく所存です。

### 特任教員 張 科蕾



みなさん、こんにちは。  
青島大学から参りました張科蕾と申します。四月から一年間、特任教員として中国語の授業を担当させていただきます。  
下関市立大学には多くの博学多識の先生がいらっしゃいます。また学生の皆さんはとても意欲的です。このような環境で研究や教育ができることを、とても光栄でうれしく思っております。こちらに来て、あっという間に一か月が経ちました。これまで、毎回楽しく授業をさせていただいております。可愛い学生さんたちに恵まれてとても幸せです。

青島大学では、おもに日本語教育の仕事に携わっていますが、自分の日本語はまだまだ不十分だと感じております。市大で赴任するこの一年間を利用して、自分の日本語に磨きをかけたいと思っております。

辞書は言葉の勉強に重要な役割を果たしています。外国人学習者向けの辞書に関しては、中国は辞書大国の日本に後れを取って

ると言えます。私は役に立つ中国語辞書や日中辞書をどのように作成、編纂するのかといった学習辞書の研究に関心を寄せています。

一年間、語学の上達を目指して、皆さんとともに頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## サークル 紹介

## 落語研究会

会長 吉村直記（国際商学科3年）



僕たち落語研究会は今年創立40年を迎える、歴史と伝統あるサークルです。現在、現役18名で活動しております。週2回練習会を行い、年に4回寄席を開いて自分たちの練習の成果を披露しています。また、地域の皆様方からの要請があれば、僕たちが出向いて発表する渉外活動も積極的に行っております。

落語というとなんだか堅いイメージを持たれるかもしれませんが、僕たちは肩の力を抜いて気楽に活動しています。部員同士はとても仲が良く、練習会の後やオフの時などには交流を深めるために様々な活動をしています。誰が言ったか知らないが、「家族」のようなアットホームな雰囲気のあるサークルです。

しかしただ仲がいいだけでは、ただの仲良しサークルになってしまいます。そうならないように、当たり前ではありますが僕たちは練習会や寄席は気を引き締めて真剣に取り組んでいます。やるときはきちんとやる。ふざけるときは全力でバカをやる。これが僕たちのやり方です。こういうメリハリって、とても大事だと思います。

今年で40周年を迎えるにあたり、これも一重に今までの伝統を築いて来てくれた先輩・OBの方や地域の皆様、学校関係者の皆様のおかげだと思います。これからも皆様の感謝の気持ちを忘れずに、頑張りたいと思います。目指せ50周年!!

## ■新入留学生35名の歓迎会

今年度、本学に35名の新入留学生（学部生18名、大学院生4名、特別聴講生7名、科目履修生5名、研究生1名）を迎えました。

4月22日、本学厚生会館3階多目的ホールにおいて、国際交流会ともだち主催の「平成23年度留学生歓迎会」が開催されました。学内外のサポーターの方々や本学学生、教職員など104名が出席し、瓦ソバなどの料理や飲み物を手に、留学生との団らんや恒例のビンゴゲームで盛り上がりしました。



■平成23年度予算

(単位:百万円)

区 分		金 額
収 入	運 営 費 交 付 金	224
	授 業 料 等	1,083
	入 学 金	124
	入 学 検 定 料 等	58
	事 業 収 入 等	30
	寄 付 金	18
	受 託 事 業	10
	補 助 金	17
	目 的 積 立 金 取 崩 額	35
計		1,599
支 出	一 般 管 理 費	309
	人 件 費	1,047
	教 育 経 費	139
	研 究 経 費	47
	教 育 支 援 経 費 ( 図 書 館 )	38
	受 託 事 業 費	3
	補 助 金	16
計		1,599

■行事記録 (平成23年3月～6月)

- 3月 8日 一般選抜 (中期日程)
- 12日 大学院選抜 (二次)
- 25日 卒業式
- 4月 6日 入学式
- 11日 春学期授業開始
- 23日 留学生歓迎会
- 6月 1日 開学記念日
- 23日 入試説明会

■行事予定 (平成23年7月～平成24年3月)

- 7月 7日 世界の厨房から
- 23日 オープンキャンパス 2011
- 8月 1日 春学期定期試験 (～9日)
- 7日 オープンキャンパス 2011
- 10日 消防訓練
- クリーンキャンパスデー
- 19日 卒論提出日 (9月卒業生)
- 9月10日 大学院選抜 (1次)
- 26日 秋学期授業開始
- 30日 春学期卒業式
- 10月2日 ミニオープンキャンパス
- 6日 国体 (全学休講) (～10日)
- 21日 大学祭 (前夜祭) (～23日)
- 11月19日 推薦入学・特別選抜・編入学入試
- 12月26日 冬季休業 (～1月4日)
- 1月14日 大学入試センター試験 (～15日)
- 20日 留学生送別会
- 2月2日 秋学期定期試験 (～10日)
- 25日 一般選抜 (前期日程)
- 3月 8日 一般選抜 (中期日程)
- 25日 卒業式

■平成23年度特待生表彰式



5月9日 (月)、平成23年度特待生の表彰式を実施しました。

本年度成績優秀者に認定される特待生として選出されたのは、2、3、4年の各学年4名ずつと、留学生2名の計14名でした。特典として、授業料の

半額免除や奨学金などが与えられました。

大学を体験しよう!!  
下関市立大オープンキャンパス2011

【開催日時】

7月23日(土)／8月7日(日)

10:00～15:00 (受付9:30～随時 B講義棟1階)

【全体説明】 10:00～11:10 233教室

【模擬講義】 11:20～12:10 / 14:00～14:50

23日 経済学科 (233教室) : 森 邦恵准教授

「経済学でみる人間の姿～限りある世界の住民として～」

国際商学科 (223教室) : 高橋和幸教授

「簿記・会計の基礎に触れる」

公共マネジメント学科 (211教室) : 足立俊輔講師

「新しい公共サービスの担い手としての住民・NPO・企業」

7日 経済学科 (233教室) : 吉弘憲介准教授

「税の世界：財政を支える仕組みについて」

国際商学科 (223教室) : 山川俊和准教授

「iPod からみるグローバル経済」

公共マネジメント学科 (211教室) : 水谷利亮教授

「公共マネジメント入門」

【大学語学入門】 13:00～13:50

大学英語入門 (224教室) ポール・コレット特任教員

中国語入門 (225教室) 浅野雅樹講師 (23日)

武井満幹准教授 (7日)

韓国語入門 (226教室) 白川春子准教授

【個別相談】 11:10～12:00 / 13:00～15:00 B講義棟2階

個別ブースにて、入試や大学生活、就職などに答えます。

【図書館ツアー】 11:10～12:00 / 13:00～15:00 図書館

専門職員が、閉架書庫にもご案内します。

【市大生と語ろう】 厚生会館2階

サークル活動や勉強のことなど、在学生の生の声が聞けます。

【学内施設ツアー】 厚生会館2階受付

在学生とおしゃべりをしながら、学内を散策しましょう。

【学食体験ランチタイム】 厚生会館1階

学生食堂でランチを味わえます (無料)。

【送迎バス運行】

JR 新下関駅(東口)・幡生駅から無料送迎バスが出ます。

両駅ともに、時間は、9:15と9:45です。

